

提 言 書

「エコの街・摂津を目指して」

平成23年3月1日

平成22年度 摂津市市政モニター

平成23年3月1日

摂津市長 森山一正様

摂津市市政モニター

代表 長尾 岬雨

「エコ」に関する提言

はじめに

昨今、テレビを見ている時にも新聞を見る時にも「エコ」という言葉を聞かない日、あるいは見ない日が無いほど、自然環境保護運動が世界中で盛んに行われています。

摂津市の中にも街を清掃するグループ、リサイクル活動されているNPO団体、またリサイクルできるものばかりでローソクファンタジーというイベントを推進するグループもあり、市民のエコ活動に対する思いは地道ですが、前進しているように感じられ、また少しずつですが市民の中で美化の意識も高まり、この4、5年で市内が美しくなったような気がします。

摂津市には、淀川河川敷や安威川等の自然がまだまだ残っており、これらを大切に見守りながら環境保全を行っていくことが必要と考えます。環境を良くすることが経済を発展させ、その経済が活性化することによって環境も良くなるという、環境と経済のつながりは「暮らし」と「家計」にあてはめて考えることができます。つまり、環境にやさしい暮らし方をすることで、お財布にやさしい暮らし方につながっていくのです。

昨年、日本で初めてのエコの駅、阪急摂津市駅が完成しました。摂津市駅が完成したことは、市民としてはとても誇らしい事、素晴らしい事であり、これを機会にどうすれば市民のエコに対する意識がもっと高まるのか考えられる良いきっかけとなりました。

環境にやさしい摂津市を目指し、近い未来にエコ活動が様々な形で広まり、摂津市のエコ活動は素晴らしいと他市から思われますようお願いしてやみません。「エコの街・摂津」を目指しまして、今年度市政モニターからの提言をいたします。

1 エコの現状

現代、物があり余るという生活環境の中で過ごしている私たちにとって、その多くの物の中から何が必要か、また何が大切かを問われている時代が来ようとしています。まさにこれからは、バブルから続いた豊満な生活から一転、物の大切さを知り、質の大切さを学び、無駄を省くことにより環境の破壊を食い止め、自然豊かな環境を求める時代が来るのです。

それでは摂津市の現状を具体的に見ていきましょう。例えば、ごみの分別では良い結果が出ていると言われておりますが、分別をすれば何が良くなり、それがどのような結果が出ているのかは、市民にはよく理解されておりません。同様に給食の残菜はどのように処理され、その後どのように利用されているのか。コミュニティプラザの太陽熱発電は建物内に発電量の数字は出ている、それが建物全体のどれだけの電力が対応できているか。台所から出る廃油は、公民館に持っていけば石鹼に変わるようですが、これらは経過や結果が知らされてされておりません。これらの経過や結果が市民に理解されれば、エコ活動はさらに発展していくことでしょう。廃油等で車が動く時代ですから、油を固めてごみとして処理する方法ではエコにはつながりません。廃品回収時やごみの収集時などにペットボトルで回収して再利用出来ないもののでしょうか。

これらは、とても大きな課題でどれから取り組むという状況にありませんが、各自がささやかでもエコについて考え、一つのことでも実践できれば、その事が地球にやさしいエコの取り組みになります。

日本初のエコの摂津市駅にある無水トイレや太陽熱利用の発電等の取組みは、これからの社会にとって、当たり前となってくるのかもしれませんが、摂津市民としてはこれを機に、ますますエコに取り組む絶好の機会だと考えます。

2 エコの取組み

市民の皆さんは電化商品のエコ化や、太陽熱の利用等は知っておられますが、もっと身近なものでも充分エコの取組みが出来る事を知らない方は多いのではないのでしょうか。

例えば、世界で最もリッチなスーパーモデルとして知られるジゼル・ブンチュンさんが水洗トイレの使用によって水を無駄にしないため「シャワーの最中におしっこをしよう」と自らのブログ等で呼びかけ話題となりました。「19人がシャワー中におしっこをすれば、年間で8万3220リットルの水を無駄にしないですむ」とアピールをされていると新聞にも報道されておりました。

テレビでは東北のある町ではペットボトルのキャップを集め、木屑と混合して固め、それを公園のベンチや遊戯道具の材料に使うといった有意義な活動をされているようです。しかも発起人が小学生との事。学校で始めた小さなエコが大きなエコ活動に発展していきました。

私たちの市政モニター会議でも様々な意見が出てきました。例えば、キャップ集め、廃油の回収、プランター利用の問題、お子さんの不用品交換会等、身近な話題を知ることで関心が高まり、活発な議論になりました。その中では多くのエコに関する情報が飛び交い、その時々アイデアが少しでも早く広く、市民に伝えることができれば、活発なエコ活動につながっていくのではないかという思いを市政モニター全員が持つようになりました。

摂津市でもエコポイントや雨水タンクの補助制度などがありますが、多くの市民の方には知る機会がありませんので、まだまだ浸透しておりません。しかし、NPO団体の中にはエコに対する素晴らしい活動をしておられる団体もあります。先日、先進的なエコ活動をされておられるNPO団体の代表の方に市政モニターに対して、講演を実施していただき、とても勉強になりました。例えば、通信販売時の運送によるCO2の関係を知り、改めて地産地消の大切さを考えさせられ、またペットボトルを集め外国の子どもたちに医療ワクチンを送付する活動をされているエコ推進グループもあります。摂津市民にとって、これからどんなエコ活動をすればよいか、また、どうすれば、それらがエコにつながるのかの道標が必要ではないのでしょうか。

3 エコの街・摂津を目指して

エコの摂津市駅が完成後、美しい緑あふれる町並みを目指して、小さな摂津市が市民全体で力を合わせて「エコの街・摂津」を全国発信するためには、どのような事が必要でしょうか。それには、いかにして市民全体がエコ活動を協働できるかが問われるのだと思います。それには広報紙という手段を用いて、市内にエコの啓発活動が出来ないものかと考えます。そして、毎月同じ場所にエコの記事を掲載することを提案いたします。例えば、皆が水道の栓を少し小さくすれば、どれだけの水が節約できるか、高い水道料金がどれだけ節約できるかなどの統計を提示しながらエコ活動に対する市民意識を啓発して、摂津市全域でエコ活動の推進に取り組んでいく。全国に誇れる「エコの街・摂津」を目指して、小さな街だからできるエコ活動を始めていきましょう。

「エコの街・摂津」を目指す。

それは摂津市民にとって楽しい目標となります。